

地域資源生かし 津軽の活性化を

弘大でシンポ

津軽地域の豊かな資源や個性を生かし、地域を活性化しようと、シンポジウム「津軽の美と人を考える」が5日、弘前大学文京キャン

パス内「コラボ弘大」で開かれた。

シンポジウムは、同大生涯学習教育研究センター、地域共同研究センター、大学院地域社会研究科が、連携して取り組む「津軽・美・人(つがるびと)プロジェクト」の第1弾

として企画した。

この日は同大の加藤陽治理事、生涯学習教育研究センター講師の深作拓郎さん、大学院地域社会研究科博士課程1年の津田純佳さんの3人が、これまでの取り組みや研究成果を発表した。



弘前の街の活性化策を提案した津田さん(右)

津田さんは秋田県の角館で、自身がかわり、商店街の空き店舗をギャラリーとして再利用したプロジェクトを紹介した。街を良くしようという若手作家の行動が、地域住民との交流を生んだ経緯を説明。その経験を踏まえながら、弘前の街を良くするために「土手町の空き店舗で大学の研究成果を発表するなどし、学生と住民が交流するきっかけをつくってはどうか」などと提案した。

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。